

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

| | |
|----------------|--|
| 1 学校教育目標 | (1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成 |
| 2 現状の分析 | ○ICT推進委員会を中心とした研修により、職員のICTを活用した「わかりやすい授業」のスキルが向上している。 ○学校の新型コロナウイルス感染症対策に多くの生徒がしっかりと呼应し基本的生活習慣の充実に向けて取り組みが進んでいる。 ○心おだやかで優しい生徒たちが良い雰囲気をつくっている。 ○規範意識に関わる話を全校放送や各クラス担任の協力で実施する中で多くの生徒が心ある行動に努めるようになった。 ○いじめアンケートを活用してきめ細かい支援が実施できている。 ▲遅刻が増加している。コロナ禍の影響で生徒に対する指導が徹底しきれない状況が続いた。 ▲生徒個々の学力に合ったきめ細かな指導が必要である。 |
| 3 学校の抱える課題 | ・多様化する生徒に対し、個別に合理的な指導方法を作成し、かつ全職員で共通理解を図る必要がある。 ・校則見直しの関係等から職業教育上で生徒の対応に苦慮する場面がある。 ・オンライン職員会議のため、情報交換、情報共有をする機会が減ってしまった。 ・挨拶や身だしなみ、交通安全やSNSの適切な使用など、ルールやマナーの向上を図るための有効な指導方法の検討が必要である。 |
| 4 今年度の具体的な重点目標 | ◇逞しく生き抜くための基礎学力の定着と、専門知識・技能の習得を図る「チームワークでつくる可児工の確かな教育力」 ◇社会人としてのマナーやモラルを身につけた生徒の育成（生徒のことを思いやる心と共感的な生徒理解・道徳心を育む指導・規範意識の向上・積極的な社会参画・さわやかな挨拶、身だしなみ） ◇特別な配慮が必要な生徒、不登校生徒への支援（教育相談体制の充実・特別支援教育体制の充実・関係機関との連携） |

| 年 度 目 標 | | | 年 度 末 (途中) 評 価 | | | |
|-----------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|-----------------|---|-------------|
| 5 評価項目 領域・分野 | 6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策 | 7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標 | 8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等 | 9 評価 A・B・C・D | 10 成果と課題 | 11 総合 評価 |
| 教育課程 学習指導 | ①基礎基本の定着を徹底する。 | ①基礎力診断テスト | ① 基礎力診断テストの分析 | B | ○積極的なICT活用授業や オンライン学習支援が充実 ▲ | A |
| | ②授業改善を目的に研修の充実 | ②ICT研修の充実 | ②アンケートと研修の実施 | A | | |
| | ③ICT機器の活用 | ③オンライン学習支援 | ③オンライン学習支援の実施 | A | | |
| 進路指導 | ①進路ガイダンス機能の充実 | ①3年生の進路実現達成 | ①外部講師の協力を得て3回以上実施 | B | ○3年間を見通したキャリア 教育の充実 ▲進路希望調査の充実 | B C |
| | ②主体的な進路選択意識の醸成 | ②就職・進学活動の積極性 | ②進路選択に明確な目標をもつ | B | | |
| | ③キャリア教育の推進 | ③キャリアパスポートの充実 | ③ポートフォリオの実施と整理・保管 | A | | |
| 生徒指導 職業教育と心の 育成 | ①基本的生活習慣の構築 | ①多遅刻生徒への指導・改善 | ①個別指導の強化。 | B | ○遅刻指導により改善。 ○生徒の相談機会を増加。 ▲自立力を高める指導 | D |
| | ②教育相談の充実 | ②外部専門家との連携。 | ②カウンセラーの効果的な活用 | B | | |
| | ③自他の生命の尊重 | ③いじめ未然防止と早期発見。 | ③校内いじめ防止対策体制を強化 | A | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月12日

・工業高校としての役割を果たし、特色ある活動を実践されている。
・工業高校ならではの指導により、多くの企業からの求人がありその責務を果たしている。地域や企業との連携も効果につながったと思う。
・可児工業高校の取り組みは、全体的に積極的であると思う。
・明確な目標、取り組み、方策と計画が立てられ大変よく進められている。

12 来年度に向けての改善方策案

・教科指導における一人一台タブレットの授業活用と教員研修の充実
・オンライン学習支援とe-learningシステムの充実による学習習慣の定着
・web会議システム等を利用した新しいキャリア教育の実践を計画・実施
・より挨拶がしっかりでき、明るく元気な生徒となるように働きかける
・多様な生徒対応のための外部連携と教育相談体制の強化
・学校運営委員会等において熟議を重ね、学校運営を進めていく